

2-1 空間構成の基本方針

熊本駅周辺地区の望まれる役割

- ・ 広域的位置づけ：「熊本の玄関口」、「九州を代表する生活・文化の交流拠点」
- ・ 熊本市における位置づけ
：副都心として、九州中央の拠点にふさわしい交流拠点を形成し
中心市街地全体のポテンシャルアップを図る。

目指すべき空間構成の基本方針

地勢から見た基本方針

→豊かな水と緑と調和し、人々に「癒し」を与える都市空間づくり。

→九州熊本の歴史を表現・アピールしつつ、新たな熊本らしさを形作る都市空間づくり。

動線から見た基本方針

→道路・水辺・広場空間が、相互の連続性を意識させ人々に「期待感」を持たせる市空間づくり。

→公共空間と民有空間が一体となって、県都の顔となるシンボリックな都市空間づくり。

機能から見た基本方針

→多様な人々の活動を、安全で快適にサポートする「安心」を与える都市空間づくり。

→地球環境や都市デザインにおいて、九州の牽引役となる都市空間づくり。

県都・熊本にふさわしい
シンボリックな“まち”

都市の成長を実感し、活力
とにぎわいのある“まち”

豊かな地域の環境と共生す
る“まち”



空間構成のデザインテーマの設定

心安らくふれあいが感性に響く
森の都の癒しの空間

- 地区全体が『森の都』を感じさせる空間の演出により、様々な人々に『癒し』を提供する空間づくり
- 地区の個性や魅力（自然・歴史・文化・都市活動等）を活かし、誰もが『心の安らぎ』を感じ、ここでの様々なふれあいが『感性(心)に響き』、また、より多くの人々を惹きつける『洒落たデザイン』の空間づくり

《地区を構成する空間軸の考え方》

アメニティ軸

- ・ 出会いとふれ合いの広場（駅及び東西駅前広場）と万日山（緑の拠点）・白川（水辺空間）を結ぶシンボリック性の高い景観軸及び活動軸
- ・ 軸上に様々な交流の場が整備され、駅周辺地区の賑わいを醸し出すとともに、人々を駅から緑・水辺へ誘う空間づくり

森のみち

- ・ 熊本駅への主要アクセス道路として自動車だけでなく、市電やバスなど都心等との連絡機能を有する街なか交通軸
- ・ 地区の主要南北軸として、パークステーションにふさわしく“森”を実感できる空間づくり

水辺の小径

- ・ 坪井川の水辺空間と歴史的資源の活用により、賑わいある地区内で心の安らぎを与える散策路
- ・ 東A地区再開発と一体となった親水広場を設け、懐古的な風景と水辺の都市文化を再現できる空間づくり